

テーマ： とつげき!!世界の食文化

ファシリテーター（グループ）： 異文化理解チーム

ファシリテーター（参加学生）

細貝祐美子、平岡巧、武藤梨奈、東海林早紀、幸田真央、今泉将人、五十嵐さくら、荒木円花

**1：本テーマの趣旨**

他国の様々な食文化を見てもらい、先入観を抱いていたということに気づいてもらう。また、なぜその食文化が根付いているのかという原因、背景、環境について考えながら異文化を排除するのではなく、ほかの文化の存在を尊重しあうという考え方を抱いてもらう。

**2：本テーマの目的**

世界との食文化の違いを知ることによって、自分たちの文化が正しいと一方向から考えるのではなく、自分とは異なる文化も存在するからお互いの文化を認め合い尊重しあうというふうに考えるきっかけにする。

**3：本テーマをとりあげる理由**

・食という身近なテーマを取り上げることによって各国、各地域により異なる食文化があるということが意識しやすい。また、食文化を通して「異文化」ということを感じやすい。

・食文化はそれぞれの地域で異なるということを、具体例を挙げ実感してもらいたい。

4 : 活動過程 (使用時間 : 90 分 参加人数 : 31 人 )

過程 (所要 時間)	活動内容とそのねらい	ファシリテーターの支援活動 (教材, 発問, 説明, 指示)	使用する教材	生徒の予想される反 応. その他, 注意事 項
名札シ ール書 き、自己 紹介(10 分)	ファシリテーターの顔と名 前を簡単に覚えてもらう。	生徒たちに呼んでほしい名前を 名札シールに書いてもらう。	・名札シール ・ペン	
アイス ブレ キング (〇分)	手ほどきゲーム (または異文化理解に関連し たゲームを実施予定 ex. 絵描 き) 各チームに別れてゲームを し、チーム内でこの後の活動 をやりやすくする。			

<p>導入 (〇分)</p> <p>「自分の食生活ふり返り」(〇分)</p> <p>自分たちが日常生活においてどのようなものを食べているのか再確認してもらおう。</p> <p>「食べもの選別ゲーム」各グループに配布してある写真を見てもらい、食べ物と食べ物でない物に別けてもらおう。</p> <p>・チームごとに確認し合う。 (〇分)</p> <p>「とっげき！世界の食べ物！！」</p> <p>5カ国の生活を大学生が劇にして紹介するので、自分達との違いに気づいてもらおう。各国紹介後に違いをグループごとに見つけてもらおう。</p> <p>・ニジェール紹介後、ブタを食べない理由を宗教問題に関連させて紹介。</p> <p>・温度計</p> <p>「ブタを食べない人と友達になれるか」を聞く。</p> <p>・日本の紹介後、日本でイナゴを食べるようになった背景について劇を用いながら紹介。</p>	<p>チームごとにふり返りを行うので、いろいろな案を出せるようにヘルプも一緒になって考えて意見を引き出してもらいたい。</p> <p>チームで選別を行うので、うまく選別が出来るように促してほしい。</p> <p>紹介する国は、アメリカ・イタリア・ラオス・ニジェール・日本の5カ国。</p> <p>ブタを食べないイスラム教を紹介。宗教という異文化の存在について気づきを与える。</p> <p>自分が考え方・価値観の違う人をどのように捉えているかという気づきを与える。</p> <p>冬の食料、イナゴが畑を荒らしたこと、伝統として食べられているなどを紹介する。</p>	<p>・ペン</p> <p>・ポストイット</p> <p>・ふり返り用模造紙</p> <p>・食べ物とそれ以外の物の写真</p> <p>・選別の紙</p> <p>・世界の料理をまとめた紙(それぞれの国ごとに1枚)</p> <p>・違い発見カード</p> <p>・ペン</p> <p>・宗教問題のキーワードを書いた紙</p> <p>・ブタの写真</p> <p>・背景を書いた絵</p> <p>・背景のキーワードを書いた紙</p> <p>・イナゴの写真</p>	
--	--	--	--

	<p>・自分たちも虫を食べてみたいか or 食べたくないかを口頭で聞く。</p> <p>・ 温度計 「イナゴを食べる人と友達になれるか」を聞く。</p> <p>休憩(〇分)</p>	<p>上記の温度計と同様、自分が考え方・価値観の違う人をどのように捉えているかという気付きを与える。</p>		<p>「知ってるー」 「ええー！」 「食べたくない」</p> <p>「嫌だ」 「食べたい」</p>
--	--	--	--	---

<p>展開 (○分)</p>	<p>グループワーク①「もし自分達と違う考えを持った人たちと出会ったらどうする？」自分だったらどのような行動をするのか考えてもらう。</p> <p>ロールプレイング 「Let's party」 グループ内でルールを持つ人たちと共に一つのパーティーを前半と後半に分けて作ってもらう。</p> <p>前半と後半のパーティーどちらがやりやすかったか、また、グループワーク①で出した自分の考えを行動に移せていたかを口頭で聞き振り返ってもらう。</p> <p>・温度計 「みんなの周りにいた考え方の違う人たちと友達になれるか。」</p>	<p>一人ひとり違うルールを持っている状態で、(i)自分の考えを絶対に主張し続ける場合と(ii)相手のルールを考慮し相手の立場に立ちながら自分の意見を主張する場合の二つの状況を体験してもらう。</p> <p>自分の考えが正しいから他の人の考えを勝手に排除していたことに前半と後半を比較することで気づいてもらう。</p> <p>自分が考え方・価値観の違う人に対しての感じ方が変化しているかどうかを確認してもらう。</p>	<p>・グループワークの紙 ・ペン</p> <p>・パーティーを作る紙 ・ペン ・グループの人数分のルールの紙</p>	<p>「仲よくする」 「一緒に遊ぶ」</p>
<p>まとめ (○分)</p>	<p>色々な文化が存在していて自分の文化が常識というわけではないということを気付かせるまとめを行う。</p>	<p>自分とは違う考え方をを持った人と触れ合う際に、相手の立場に立って考えることでほかの角度から物事を考えることが出来、新たな発見をすることができる。だから、自分とは違うからといってすぐに排除してはならない。</p>		<p>仲良くできない人は異文化理解できていないという風にならないようにする。</p>

## 6 : 使用する教材

大洋紙

マジックペン (チーム人数分) × (チーム数)

写真

ポストイット

## 6 : 参考にした資料

・PETER MENZEL/FAITH D'ALUISIO 『Man Eating Bugs THE ART AND SCIENCE OF EATING INSECTS』 (TEN SPEED PRESS, 1998 年)

## 7 : その他